第４学年○組　道徳科学習指導案

平成２９年１０月２５日

指導者　○○　○○

１　主　　題　いのちをいただく　Ｄ－（１８）　生命の尊重

２　資料名　いのちをいただく（出典　講談社『いのちをいただく』原案　坂本義喜　作　内田美智子）

３　主題設定の理由

1. ねらいとする価値について

　　　　人間は、生きていく上で誰もが動植物を食べている。動植物にはそれぞれに尊い命があり、その尊い命を食することで生きているのである。これは食物連鎖の過程では当然のことではあるが、普段我々は「動植物の尊い命を食べている」ことを意識していない。

　　　　子どもたちは、普段から昆虫などの生き物に触れあうことによって、生命の尊さを感じる機会はたくさんある。しかし、それが食事のこととなると、とたんに生命の尊さとは結び付かなくなってしまう。尊い命をいただくという食育に触れることで、生命の尊さを実感し、そのありがたさを感じることで、より動植物を大切にしていこうという気持ちが芽生えるのではないかと考える。

1. 児童の実態について

　　　　本学級の児童は、理科の単元「あたたかくなると」や「暑くなると」を通して、身近にある動植物に触れ、捕まえた生き物を学級で飼育するなどの活動を行っている。沢山の児童が、飼育している生き物のことを調べ、飼育環境を整え、餌を欠かさず与え、命を大切にすることができていた。しかし、給食の時間は、「いただきます」をいい加減に言う、おかずなどを平気で沢山残すなど、生命の尊重と給食とがなかなか結び付かない。そこで、給食の時間のことを取り上げ、そこから生命を尊重することを考える機会が必要であると考えられる。

1. 資料について

　　　本資料は、食肉センターに勤める父親を持つ主人公が、自分の父親のする仕事を格好悪いと思い、自分の両親の仕事を発表する授業で「ふつうの肉屋です」と答えるところから始まる。血まみれで働く父親を格好悪いと思っているのだ。しかし、担任の先生に呼び止められ、自分の父親は尊い仕事をしているのだと言われたことにより、父親の仕事に誇りを持つようになる。そして、父親もまた、この仕事を辞めようかと悩んでいたのだが、主人公である息子に勇気づけられ、また、女の子が牛のみいちゃんをお別れしている様子を見て、仕事を続けようと決意する物語である。これらのことから、改めて私たちは動植物の尊い命をいただいているのだという事実に気づき、ありたがく給食をいただこうと思う気持ちを芽生えさせるのに適した資料だと言える。

４　ねらい

　〇　生命を尊重し、給食のときの「いただきます」を、気持ちを込めて言い、残さず食べようとする気持ちを高める。

５　準　　備　（教）絵本、拡大挿絵、ワークシート、

６　指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学　習　の　流　れ | 教師の働きかけと支援・留意点 | 評　　価 |
| ７（７）20（27） | １　給食のときの「いただきます」の様子について考える　△　「いただきます」の意味を知っていますか。　・　作ってくれた人に感謝する。　・　命をいただいている。　△　普段給食の「いただきます」の時、どんな気持ちで言っていますか？　・いい加減に言っている。２　資料を読み、登場人物の気持ちや行動について考える。1. 資料を読み聞かせする。
2. 登場人物の気持ちや行動に

　　　ついて考える。　△　どうして坂本さんは、「この仕事をやめよう。」と思ったのでしょうか。　・　牛を殺したくないから。　・　恰好悪い仕事だから。　▲　牛が泣くのを初めて見た坂本さんはどんなことを考えたでしょうか。　・　命の大切さを改めて感じた。　・　殺すのが悪いと思った。　・　大切に食べてもらいたい。 | 〇　日ごろの給食時に「いただきます」の様子を思い起こさせる。〇　素直な気持ちを聞き出すようにする。〇　率直に意見を言っていいと声かけをする。〇　資料は教師が読み聞かせの形で範読する。〇　登場人物の人物絵や場面絵を掲示し、気持ちを考えやすいようにさせる。**視覚化**〇　動物を殺しているということを残酷なことだと思わせないよう、主人公のお父さんの仕事の大切さに触れさせたい。 | 〇　日ごろの給食時の「いただいます」の様子について思いうかべることができたか。（観察・発表）〇　集中して資料の読み聞かせを聴くことがでいたか。　　　（観察）〇　登場人物の気持ちや行動について考えることができたか。（発表・観察）〇　坂本さんの気持ちの変化に気づくことができたか。（発表・観察） |
| 15（42） | ３　資料を通して、給食を食べるときに気をつけようと思うことを考える。　▲　給食を食べるときに、気をつけようと思ったことをワークシートに書きましょう。**焦点化**・　「いただきます」をもっと心を込めて言う。・　ごはんやおかずをあまり残さないようにする。　△　書いたことを発表しましょう。・　「いただきます」をもっと気持ちを込めて言おうと思い**共有化**ます。 | 〇　思ったことを率直に書かせるため、箇条書きでよいことを知らせる。〇　書くことがなく悩んでいる児童には、個別に声掛けをし、日ごろの給食時の様子と絵本での出来事を照らし合わせるようにさせる。〇　近い意見や付けたしなど、おおいに認める。 | 　給食時に「いただきます」を、気持ちを込めて言おうとする気持ちや、食べ物を残さず食べようとする気持ちを高めることができたか。（ワークシート）〇　自分の行動を振り返ることができたか。（発表・ワークシート） |
| ３（45） | ４　今後の給食の「いただきます」の意味について考える。（１）　「いただきます」の意味について話をする。（２）今日の授業の感想を書き、発表する。　△　今日の授業を通して、思ったことを書きましょう。　・　給食をこれまで残していたけど、きちんと食べようと思った。　・　命だから、大切にいただきたいと思った。 | 〇　素直な気持ちで書くよう声掛けをする。 | 〇　今後の給食時の「いただきます」の言い方について考えることができたか。　（発表・観察） |